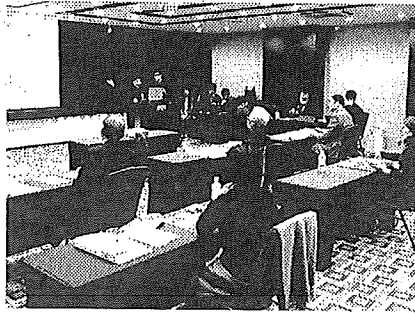


優秀賞に3作品

建コン協 夢アイデア交流会



建設コンサルタンツ協会九州支部（福島宏治支部長）は5日、「夢アイデア交流会2020」をオンラインで開いた。写真。応募60作品から、

優秀賞3作品、佳作7作品などを選んだ。最優秀賞の該当作品はなかった。

同支部独自の取り組みで、まち・地域づくりのアイデアを募集する夢アイデア募集は今回で18回目。冒頭あいさつした福島支部長は、「市民によるまちづくり提案を専門家集団の建設コンサルタントが支援し、夢とアイデアでまちを变える取り組みを進めている」と趣旨を説明した。

今回は新型コロナウィルス感染対策として、福岡市内の会場には選定された10作品の

発表者のほか、審査委員、スタッフのみが出席し、約10人がオンラインで参加。発表者によるプレゼンテーションや審査委員の質疑、オンライン参加はチャット機能などを使って交流した。

投票や審査の結果、優秀賞に選ばれたのは、井上徹郎さんと永秋健さんの「QR行動」、道井綾さんの「ミツバチといっしょに花が咲き乱れるまちをつくりたい」、清野聡子さんの「里山里海イニシアティブ」の3作品。

養蜂家の視点を生かして耕作放棄地の再生や1年中花を絶やさない地域づくりを提案した道井さんは受賞にあたり「提案が形になるよう、今後

も頑張っていきたい」とコメントした。

この日、発表した残り7作品は佳作に、また16作品を提出したウエルネスJUMP講座（鹿児島県）と、湯浅陸雄さんの「阿蘇・内牧新町環境整備隊による地域整備と観光推進」を特別賞に選んだ。

講評した玉川孝道審査委員長は、「コロナ時代で大きな夢を描く気分にならないためか、発想がどれも身のまわりのことに集中し、アイデアに限界があった」と最優秀賞の該当がなかった理由を説明。

それでも「コロナにより、応募作品が少ないと心配していたが、60作品あったことは取り組みが多く、の支持を得ているからだ。今後も観察力や発想力を磨く努力を続けてほしい」と呼び掛けた。

佳作7作品と発表者は次のとおり（敬称略）。

- ▽街の木々を命名して、街に夢を！（小田尚央、岐島春樹、緒方祥之）
- ▽海の見える商天蓋で！新しいまちの賑わいの広がり！（鶴蘭敦也）
- ▽地元歴史観光巡りWith地元に住む海外の方々（岡嶋理功）
- ▽あっちにもこっちにも明るい元気な商店街をつくらう（千田透）
- ▽シルバー通信簿の提案（山岡秀峰）
- ▽通りを考えることから始めてみよう（ドロ）
- ▽世界遺産を築きもう（有富菜月）。